

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

				事務事業コード		614-01-01			
事務事業名		図書館運営事務事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)			
				連絡先		072-950-5501			
担当部署名		図書館課		予算科目	会計	1	一般会計		
総合基本計画	施策目標		6		歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち		款	10	教育費
	施策		1		生涯学習		項	5	社会教育費
	施策の方向		4		読書活動の充実		目	9	図書館運営費
事業の概要	対象 (誰を・何を)		羽曳野市在住・在勤・在学者、及び広域連携自治体住民						
	目的 (どうしたいか)		多様な資料や情報を収集して地域住民の皆様の課題解決を支援し、知的で心豊かな住民生活に寄与することを目的とする。						
	手段 (事業内容)		市内6館及びブックステーション1室で資料(情報)提供を中心にリクエストサービス、レファレンスサービス、障害者サービス、学校図書館支援事業、各種集会文化活動、ステーションライブラリーや、広域貸出サービス等を行っている。						

予算・決算額		(単位:千円)			※主な内訳(令和3年度決算)※
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	【事業費】 システム保守料 3,459千円 図書資料費 15,930千円 図書館業務委託料 18,685千円 【特定財源】
当初予算額	事業費	49,483	51,104	55,437	
決算額	事業費	44,946	44,699	—	
	特定財源等	0	0	—	

活動指標	(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	資料貸出冊数	単位	冊
指標の説明	1年間に個人貸出した冊数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	760,000	760,000	760,000
実績	594,476	606,422	－

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	市民一人当たりのサービス効果	単位	円
指標の説明	貸出図書を個人が購入したと仮定し、そこから必要経費を差し引いた分を市民の利益とする指標		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	9,500	9,500	9,500
実績	7,165	7,728	－

事業の参考数値等	
貸出人数 H29 230,073人 H30 228,039人 R1 204,542人 R2 157,527人 R3 159,255人 市民一人当たりの貸出点数 5.5冊	

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	拡充・重点化
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
図書館は、知識基盤社会における知識・情報の重要性を踏まえ、資料や情報の提供等の利用者及び住民に対する直接的なサービスの実施や、読書活動の振興を担う機関として、また、地域の情報拠点として必要な施設である。また、住民の学びを支えることを通じて住民の暮らしを豊かな彩りあるものにするともに、地域の課題解決に主体的・積極的に取り組む地域社会の担い手を育成する生涯学習の拠点としての役割を果たす必要がある。	

今後の改善内容
(令和4年度以後の事業実施への改善内容)
新たに電子図書館サービスを開始。図書館アプリの提供を開始。 また、障害者サービスの対象者の拡大、多文化サービスの開始など、新たなサービスに取り組む。 研修の積極的受講などにより、職員のスキルアップに取り組み、さらに利用者、市民から求められる図書館をめざす。

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

				事務事業コード		614-01-02		
事務事業名		ブックステーション管理運営事務事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)		
				連絡先		072-950-5501		
担当部署名		図書館課		予算科目	会計	1	一般会計	
総合基本計画	施策目標		6		歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち	款	10	教育費
	施策		1		生涯学習	項	5	社会教育費
	施策の方向		4		読書活動の充実	目	9	図書館運営費
事業の概要	対象 (誰を・何を)		地域住民					
	目的 (どうしたいか)		図書館から離れた地域の方々にも、読書環境を提供する。					
	手段 (事業内容)		はびきのコロセアム内に、“ブックステーションはびきのコロセアム”を週3日午後から開設し、資料の貸出しや情報の提供を行う。					

予算・決算額		(単位:千円)			※主な内訳(令和3年度決算)※
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	【事業費】 ブックステーション施設管理(電話料): 35千円 【特定財源】
当初予算額	事業費	39	38	38	
決算額	事業費	35	35	—	
	特定財源等	0	0	—	

活動指標	(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	資料貸出冊数	単位	冊
指標の説明	ブックステーションはびきのコロセアムの個人貸出冊数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	7,500	7,500	7,500
実績	4,292	3,541	－

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	ブックステーション利用者利用金額	単位	円
指標の説明	ブックステーション利用者が本を購入したと仮定した利用者一人当たりの購入費用		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	5,000	5,000	5,000
実績	4,567	4,658	－

【事業費】 ブックステーション施設管理(電話料): 35千円
【特定財源】

※事業の参考数値等※
1回開設当たり利用冊数 H29 65冊 H30 60冊 R1 61冊 R2 38冊 R3 34冊

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題) 図書館から離れた地域の方々にも読書環境を提供するため、本事業は継続の必要がある。ただ、なお市全域をカバーするに至っていないことなどの課題がある。	

今後の改善内容
(令和4年度以後の事業実施への改善内容) 10月より、開設日を火・木・金から火・木・土に変更した。今後も地元の人が足を運びやすいように改善策を検討する。 現在図書館空白地域となっている駒ヶ谷地域で同様の事業が実施できないか検討を行う。

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

				事務事業コード		614-01-03	
事務事業名		ステーションライブラリー管理運営事務事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
				連絡先		072-950-5501	
担当部署名		図書館課		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち		款	10	教育費
	施策	1	生涯学習		項	5	社会教育費
	施策の方向	4	読書活動の充実		目	9	図書館運営費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	主に、古市駅・高鷲駅を利用する地域住民					
	目的 (どうしたいか)	自由で豊かな読書に親しんでもらうとともに、図書館の利用につなげる。					
	手段 (事業内容)	市民からの寄贈本を再活用し、駅に設置の本棚に定期的に本を補充するとともに、魅力的な棚づくりに勤める。また、令和元年度に世界遺産となった、百舌鳥・古市古墳群の情報なども発信していく。					

予算・決算額		(単位：千円)			≪主な内訳(令和3年度決算)≫	
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	【事業費】 【特定財源】	
当初予算額	事業費	0	0	0		
決算額	事業費	0	0	—		
	特定 財源等	0	0	—		

活動指標	(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	資料補充回数	単位	回
指標の説明	1年間に資料の補充を行った回数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	70	70	10
実績	0	0	—

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	資料補充冊数	単位	冊
指標の説明	1年間に資料を補充した冊数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	4,000	4,000	2,000
実績	0	0	－

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいのか。	影響がある。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題) 図書館まで来ることができない方でも気軽に読書に親しむことができる。世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」などの情報を発信する場ともなっている。	今後の改善内容 (令和4年度以後の事業実施への改善内容) 新型コロナウイルス感染症の状況を確認しつつ、なるべく早期に再開できるよう安全に実施できる方法を検討する。

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

				事務事業コード		614-01-04	
事務事業名		大学図書館との連携推進事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
				連絡先		072-950-5501	
担当部署名		図書館課		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち		款	10	教育費
	施策	1	生涯学習		項	5	社会教育費
	施策の方向	4	読書活動の充実		目	9	図書館運営費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	羽曳野市在住・在勤・在学者					
	目的 (どうしたいか)	市民の利便性の向上と、情報提供範囲の拡大を目的とする。					
	手段 (事業内容)	四天王寺大学との間での連携協定に基づき、資料の借用や学生の受入れ・交流・情報提供・業務の連携を行う。					

予算・決算額		(単位：千円)			≪主な内訳(令和3年度決算)≫	
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	【事業費】 【特定財源】	
当初予算額	事業費	0	0	0		
決算額	事業費	0	0	—		
	特定 財源等	0	0	—		

活動指標	(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	事業連携回数	単位	回
指標の説明	大学図書館との業務連携回数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	15	15	5
実績	0	2	—

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	大学図書館資料借用冊数	単位	冊
指標の説明	四天王寺大学図書館からの資料借用冊数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	15	15	15
実績	0	0	—

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題) 様々な学問分野の専門書は、必ずしも公共図書館ですべて収集する必要はなく、利用者の希望に応じて所蔵する大学図書館などの協力を得て提供することが効率的であり、今後も必要である。	今後の改善内容 (令和4年度以後の事業実施への改善内容) コロナで中断していたが、令和3年度の途中から再開している。インターンシップの受入も再開している。 今後、従来共催していた行事等の再開や、あらたな事業にも協力して取り組んでいく。

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

				事務事業コード		614-02-01		
事務事業名		子ども読書活動推進事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)		
				連絡先		072-950-5501		
担当部署名		図書館課		予算科目	会計	1	一般会計	
総合基本計画	施策目標		6		歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち	款	10	教育費
	施策		1		生涯学習	項	5	社会教育費
	施策の方向		4		読書活動の充実	目	9	図書館運営費
事業の概要	対象 (誰を・何を)		子ども(おおむね18歳以下の者)と子どもに関わる大人					
	目的 (どうしたいか)		子どもが読書に親しむ機会を提供し、子どもの健やかな成長に資することを目的とする。					
	手段 (事業内容)		資料の整備充実を図り、家庭・地域・学校が連携し市全体として取り組みを行う。また、子どもの読書活動への理解と関心を深めるため、啓発・広報活動を行う。					

予算・決算額		(単位:千円)			《主な内訳(令和3年度決算)》	
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	【事業費】 資料費(児童書)5,679千円 【特定財源】 令和3年度大阪府新子育て支援交付金(子育て支援(市町村計画)梓事業):257千円	
当初予算額	事業費	5,569	5,695	5,695		
	事業費	5,569	5,679	—		
決算額	特定財源等	203	257	—		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	児童書購入冊数	単位	冊	
指標の説明	1年間に購入した児童書冊数			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		3,600	3,600	3,600
実績		3,397	3,384	—

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	児童書貸出冊数	単位	冊	
指標の説明	1年間に利用のあった児童書冊数(個人+団体)			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		320,000	320,000	320,000
実績		238,321	264,299	—

【事業費】 資料費(児童書)5,679千円
【特定財源】 令和3年度大阪府新子育て支援交付金(子育て支援(市町村計画)梓事業):257千円

《事業の参考数値等》	
児童書(団体)貸出冊数	
H29	42,690冊
H30	46,400冊
R1	39,225冊
R2	37,509冊
R3	45,510冊

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	拡充・重点化
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであり、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならないため、法律上事業の推進が義務付けられている。 現状では、やや持ち直しつつあるが、なお子どもの読書量の減少に歯止めがかかっていない。	

今後の改善内容
(令和4年度以後の事業実施への改善内容)
古市図書館をパイロット図書館とし、児童サービスに重点的に取り組み、また、小学校や幼稚園と連携した事業を行う。 新たに開始した電子図書館サービスと、子どもたちに支給されているタブレットを活用するなどして、子どもたちに少しでも読書の楽しさを知ってもらえる取り組みを行う。

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

				事務事業コード		614-02-02	
事務事業名		学校図書館支援事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
				連絡先		072-950-5501	
担当部署名		図書館課		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	施策目標	6	歴史・文化が息づき 心身ともに躍動するまち		款	10	教育費
	施策	1	生涯学習		項	5	社会教育費
	施策の方向	4	読書活動の充実		目	9	図書館運営費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	幼稚園児・保育園児・小学生・中学生・高校生と先生					
	目的 (どうしたいか)	子どもたちへの豊かな読書環境の提供を行う。					
	手段 (事業内容)	図書館が、学校図書館等読書支援センターとして、授業等で必要な資料の購入と、計画的な資料の提供を行う。”たけのこくんブックボックス”(1クラス50冊程度)を希望のクラス・学校へ届ける。					

予算・決算額		(単位：千円)			≪主な内訳(令和3年度決算)≫
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	【事業費】 【特定財源】
当初予算額	事業費	0	0	0	
決算額	事業費	0	0	—	
	特定 財源等	0	0	—	

活動指標	(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	学校等連絡車運行回数	単位	回
指標の説明	1年間に学校連絡車及び図書館から直接貸出車が運行した回数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	145	180	180
実績	164	146	－

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	学校図書館等貸出冊数	単位	冊
指標の説明	学校図書館及び幼稚園・保育園等に学校連絡車及び図書館から直接運んだ冊数(学校図書館貸出数+ブックボックス貸出数)		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	33,000	43,000	50,000
実績	39,105	40,756	—

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	拡充・重点化
(担当部局による総合評価の理由や課題)	(令和4年度以後の事業実施への改善内容)
子どもの読書活動推進事業のうち、学校図書館支援は大きな位置を占めている。これらの図書を各校、各学級で用意することは困難であり、図書館の果たすべき役割は大きい。今後さらに必要な支援を行っていく必要がある。	市内小中学校にも一定数の外国人の児童、生徒がおり、その子どもたちの母国語の図書へのニーズは大きい。今後、市立図書館として多文化サービスにとりくみ、外国語の図書も収集して学校図書館に提供する。 そのように従来以上の支援ができるよう学校図書館及び担当部署と協議し、検討する。